

なな

1 月号  
vol. 227

謹賀新年

1016

おとなの  
社会科

第22講 歴史——女工物語・第4章



# おとなの社会科

## 第22講 歴史——女工物語・第4章

昔、使った教科書をパラパラめくってみると、あの頃には気づけなかった面白さがみえてきた——そんな経験はないだろうか。学校の教科書は昔と同じではない。だから、大人になってからの学び直しも決してムダではないはず。学校に通ってた頃を思い出して、もう一度、目の前に広がる社会を学び直してみませんか。

脇に立つ一人の女性を見た。古風な着物姿で髪を結い、大浪通のガードレールに小柄な身体を預け、通り過ぎる大型トラックの排気ガスを浴びて寂しそうに佇んでいた。

しばらく経って、沖縄の民謡歌手である大城美佐子が歌う『今帰仁天底節』を聴いていたら、馴染みのある北恩加島という町名が歌詞に出てきた。そこに描かれているのは、沖縄生まれの薄幸な一人の女性が歩んだ、苦難に満ちた人生の物語である。

この歌が作られたのは1929（昭和4）年で、沖縄・屋我地島のある男性が「カミー小」と呼ばれていた身近な女性の話を基に書いたのだという。それを那覇の遊郭の遊女たちが好んで歌ったことで全国に広まり、特に関西の沖縄出身者の間で愛唱されるようになった。

現在知られている今帰仁天底節

### ソテツ地獄を逃れて

は、レコードに収まるように歌詞が短縮され、物語の内容も変わっている。今回はより原詞に近い、大城美佐子の歌う今帰仁天底節を道案内としたい。あれから北恩加島には行っていないが、あの夜に見た女性はカミー小だったのだと私は信じている。



平尾のメインストリートである平尾本通商店街。周辺には沖縄料理店も多い

### 工場町の島唄

大正区に暮らし始めてもう7年が経つ。この街は歴史的に沖縄と縁が深く、区民の4分の1が沖縄にルーツを持つと言われている。大正駅前には何軒もの沖縄居酒屋があり、そこから南へ下った平尾

は「リトル沖縄」と呼ばれる沖縄系住民の集住地区である。商店街には沖縄の物産店などがあり、海の向こうの空気が色濃く流れる（①）。

それは眠れない夜に、木枯らしの中を近所のコンビニに行った時の話である。北恩加島の交差点の

一「我が生まれ島や 枯木山原ぬ  
今帰仁の天底 仲本ぬ産子」  
二「七ちなる年に 二所ぬ親や  
我身一人残ち くれ世界に参らん」

物語の始まりは、1908（明治41）年の沖縄本島北部。今帰仁村の呉我山という集落にカミー小は生まれた。歌詞では天底集落の生まれとなっているが、これは歌を書いた男性が、主人公のモデルが特定されないように配慮した結果である。

1914（大正3）年、カミー小が6歳の時に第一次世界大戦が始まった。参戦国である欧米諸国の砂糖輸出が壊滅したことで、沖縄では主力産業だった黒糖の価格が3倍にまで上昇する。黒糖は飛ぶように売れ、財を成した商人や農家は「砂糖成金」と呼ばれた。空前の好景気で真夏のようになり、時代だったが、カミー小はこの時期に両親と死別している。

1918（大正7）年に大戦が終結した後も沖縄の好景気は続くが、それも欧米の経済が復調するまでだった。黒糖の価格は1920（大正9）年をピークに暴落し、黒糖に依存していた沖縄の経済はたちまち破綻した。

深刻な戦後不況で農村は疲弊し、食料不足から毒性の強いソテツを食べて命を落とす者も現れる。こうした惨状は「ソテツ地獄」という言葉で盛んに報道された。今帰仁など沖縄本島の北部は、南部に比べて特に経済的に厳しい状況だったという。

困窮した人々は、移民・出稼ぎ民として日本本土やフィリピン、南米などに新天地を求めた。当時は那覇港と大阪港の間に多数の定期航路があり、20年間で4万人以上が黒潮の流れに乗って大阪へと渡った（②）。

若い娘たちの多くは本土の紡績工場へ出稼ぎに行ったが、不況下



小林町の沖縄村。住民はここを沖縄の言葉で「クブングー」と呼んだ。クブンは窪地の意味で、グー(小)は親しみを込めた呼び方。歌の主人公であるカミー小は「カミーグー＝カミーちゃん」という意味になる



で人身売買が横行しており、遊郭に売られる娘も珍しくなかった。両親のいないカミィ小は身売りを免れて生き延びるが、そこにどのような事情があったのかは分からない。

## 北恩加島の沖縄村

三十八なるまでや 叔母一人頼て  
暮らち居る内に 行ち欲さや大阪  
四 情ある叔母 二言葉んすむち  
大阪北恩加島 街頼て来しが

今からちょうど百年前の、元号が大正から昭和に変わった1926年。今帰仁を出た18歳のカミィ小は、那覇港から大阪行きの船に乗って海を渡った。大阪では叔母の家に身を寄せるが、いい扱いを受けず苦しい日々が続く。やがてカミィ小は家を飛び出し、大規模な沖縄コミュニティのある大正区の北恩加島まで流れてきた。



大阪商船が運航していた波上丸。大阪から那覇までを2泊3日で結んでいた

大正区の一帯は江戸時代の新田開発で拓かれた農村だったが、明治後期から大阪市の発展に伴って都市化の波が押し寄せる。第一次世界大戦が始まると船舶の需要が高まって造船ブームが起り、水運の良い木津川沿いに大小の造船所が林立した。

1916（大正5）年には木津川と大阪港を結ぶ木津川運河が完

2

成し、沿岸の南恩加島・鶴町にセメントや製鉄などの大工場が進出する。同時期に開削が始まった大正運河の沿岸には、大阪市内の西長堀から木材業者が集団移転。周辺には数百軒もの製材所や木材問屋が集まる、西日本有数の木材街が形成された(③)。

沖縄出身者の男性は貯木場や製材所、鉄工所などで肉体労働に従事した。当時の大正区は湿地帯の干拓や埋め立てが盛んで、土木関係の仕事も多かったという。木材街から北へ上った三軒家には東洋紡績の三軒家工場が立地し、沖縄の女性はこの工場で紡績女工として働いた(④)。

当時の大阪は工業化によって多くの労働力を必要としていたが、沖縄出身者の働き口は一部の紡績企業を除いて低賃金の日雇い労働に限定されていた。住宅の入居案内や求人への貼り紙に「琉球人お断り」と書かれる状況で、彼らは身



北恩加島付近の貯木場。重い丸太の運搬は沖縄出身者によって担われていた

3

を寄せ合って生きること助け合うしかなかった。

木材街が広がる北恩加島や小林町では、沖縄の労働者たちが製材所から出た廃材を拾い集め、低湿地の一角に粗末なバラック小屋を建てて住み始めた(⑤)。このような集住地区は「沖縄村」と呼ばれ、彼らが故郷の家族や親族を呼び寄せることで拡大していく。や

がて北恩加島の沖縄出身者は6千人を超え、大阪で最大規模の沖縄村となった。

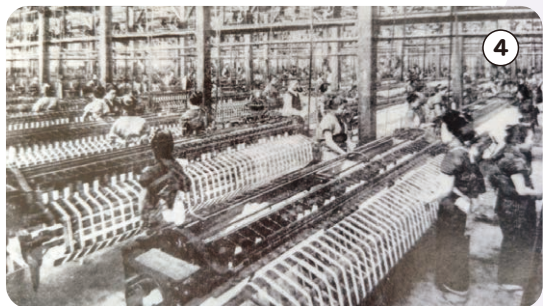
## 貧しさと差別の中で

五 がかかるかたねらん 縋がるかたねらん 我部ぬ新垣ぬ嫁に我ねなやい

六 一年二年や 梅と鶯ぬ如に暮らち居る内に 産子一人できて

カミィ小が北恩加島で暮らし始めた1927（昭和2）年の調査では、東洋紡績の三軒家工場で162名の沖縄出身者の女工が働いていた。カミィ小が何で生計を立てていたかは不明だが、大阪にきた沖縄の女性には8割が紡績女工だったことを考えると、カミィ小も紡績関連の仕事をしていて可能性が高い。

かかるかたねらん、縋がるかたねらん（頼れる人も、縋られる人もいない）。希



東洋紡績三軒家工場。2千人超の沖縄出身者が働いていたという記録もある

4

望を持つて北恩加島にやって来たカミィ小だったが、沖縄村とはいえ家族も友人もない暮らしは厳しかった。そんな時、今帰仁の近くにある屋我地島から出稼ぎに来ていた新垣という男と知り合う。二人は一緒に暮らすようになり、やがて娘も生まれた。

この時期に、木津川を隔てた西成区の今宮界限にも6千人規模の

沖縄村が形成された。この地域では近隣の大日本紡績津守工場などで働く労働者の住環境を整備するため、大正時代に大規模な耕地整理事業が行われた。現在の町名では、北は旭、梅南から南は千本北までの広大な地域である。造成された宅地には、沖縄や朝鮮の出身者たちが集住した。

こうした沖縄村の形成過程で地域的な繋がりが人脈が組織化され、職住の相互扶助を目的とした同郷団体が大阪の各地で作られる。西成の沖縄村にはカミィ小の故郷である今帰仁の出身者が多く、1924（大正13）年に今帰仁西部の今泊集落の出身者が「今泊共済会」を結成。親睦や仕事の情報交換を通じて会員は増加していった。

今泊共済会と同年に発足した「関西沖縄県人会」は社会主義の影響を受け、沖縄出身者への差別撤廃や生活改善を目標に掲げた。

仕事の紹介など同郷団体の側面を持ちつつ、紡績工場では労災補償の交渉など労働組合的な活動もしていた。こうした団体は、沖縄出身者が大阪に定着していく過程で重要な役割を果たした。

1930年代の大阪では、沖縄出身者の男性が重化学工業分野にも進出し、賃金も上昇する。沖縄出身者の定住化が進んで集住地域も一気に拡大するが、それはカミィ小がすでに大阪から立ち去った後のことだった。

先の見えない生活苦の中で、カミィ小と新垣は沖縄に帰る決断をした。まだ幼い娘を連れて一人が、失意のうちに那覇行きの船に乗り込んだのは1929（昭和4）年のことである。しかし、3年ぶりに懐かしい故郷の土を踏んだカミィ小を待ち受けていたのは、明るい未来ではなかった。



# にしなりもん

食いだおれの街・大阪ミナミのさらに南の街・西成。  
まだまだ発掘されていない「にしなりもん」を味わい尽くします。



食べごろがあまりわかっておらず、ぐつぐつ煮込まれている牡蠣を横目にユツケやサラダをいただく。どちらの一品料理も美味しくレベルが高い。

そろそろ牡蠣も食べようかと思い、店長に聞くと、ちょうどいいタイミングですよということで、鍋からよそいフーフーして一口、「うまいー」の一言につける。口の中が熱くなるのも気にならず牡蠣を2個一気に食べて、ビールをグビッと飲む。ここまで一息だったので、フーと本当に美味しいものを

## お出汁が身体に染み渡るおいしさ！ 「貝鮮と鍋 食いしん坊横丁」

冬は、日々厳しくなる寒さと年末年始に向けた仕事の忙しさで心身ともに疲弊ぎみに。そんな時は身も心も温まる「鍋料理！」だと思おう。お店を探している、よく通る26号線沿いに見慣れない提灯に「貝鮮と鍋」の文字。筆者の直感が働きこのお店に決め、後日いざ訪問。

「貝鮮と鍋 食いしん坊横丁」という名の当店は11月6日にオープンしたばかり。訪問時は開業からまだ1か月も経っておらず、入り口には開店祝いのお花が飾られていた。

17時オープンと共に入店、店内は縦長の形で手前にカウンター6席と2人掛けテーブル2つ、奥に4人掛けテーブルが2つ。カウンターに着席し、まずはメニューを拝見、鍋料理は11月から3月下旬までの提供とのこと、今回は「名物！」のかき鍋をチョイス。追加で地鶏もi.n.一品では貝と魚のカル

食べた時の息を吐く。食は人を幸せにするなあと思いつつ一旦落ち着く。鶏肉も野菜もおいしく、何よりお出汁のうまみが身体に染み渡る。

店長さんに「いかがですか？」と聞かれると「おいしいです！」の即答で、筆者ももう少しおいしさを伝えるボキャブラリーを増やさなければいけないかと反省しながら思うのは、お話しした時に出る店長さんの笑顔。写真を撮る時に「店長さんも写りますか？」と聞くと、「私が写ると怖がられる…」と謙遜されていたが、店長さんの笑顔は、お出汁と同じくなんだか体に染みるものがある。

さて、メの雑炊を頼もうとメニューを眺めて見つけてしまったのは、「牡蠣に合う白ビール」という瓶ビール、ビール好きの筆者はご当地ビールやクラフトビールはいろいろ飲んできたがこれは初見。注文したい！でも取材予算オーバー！という葛藤に



パツチョのサラダ、サーモンユツケを注文。かき鍋とともに料理が運ばれてくると一気にカウンターの上が華やかになる。

さらにはお通しでも牡蠣が出て（お通しは日替わり）、ここはベタだが「海の宝宝箱や」という某リポーターのフレーズが頭の中でグルグル回る。

実は筆者はかき鍋が初めてなので、

苦悶していたが、ここで偶然にも店内に流れたBGMがファイナルファンタジー（ゲーム）のメインテーマ。東京オリンピックの開会式にも使用され、筆者も大好きなこのBGMが流れたことでテンションは一気に上がり、予算に負けないぞ！という冒険心とともに注文。牡蠣は食べ終えていたが、そのうまみがたっぷり含まれた雑炊と共にいただく、あっさりとした飲み口のビールで雑炊もビールも進み、注文して間違いないし！

心も身体もポカポカして店長の笑顔に見送られながら「ごちそうさまをして店外へ。駅まで歩く道中も温かさが続き、いいお店を見つけたな」と思い帰路につく。

文責…笹川勝正

貝鮮と鍋 食いしん坊横丁  
住所 西成区橋1丁目3番5号

営業時間 平日17時〜24時 土日祝14時〜24時  
（どちらもラストオーダー23時）  
定休日 火曜日

電話番号 06-6115-7673

【磯拓哉】寒さが厳しくなってきた、鍋が美味しい季節になりました。市販の「鍋の素」今めちゃくちゃ種類が増えていて最近色々試すのがブームです。オススメはミツカンのキムチです！



【沖田一志】メモリの値上がり半端ない。1ヶ月前から考えると2倍。AIでデータセンタ需要が増えた影響らしく、この状況が変わる見込みはない。今年の終わりにどこまで上がってるだろう？



【笹川勝正】競技かるたの試合を観戦に、かるたの聖地・滋賀県近江神宮へ。畳上の格闘技ともいえる熱戦で応援する側もおもわず手に汗にぎる戦いでした。



【住友宣夫】この前激しい咳込みで病院へ行き、周囲はインフルの患者ばかり。身構えながら検査の結果を待っていたか結果はただの風邪でした、少しほっとした一日でした。





# 些事争論

些事でも何でも気になったらあれこれ考えてみよう。  
いいこと思いつくかもしれないし。気がついたら西成  
にたどり着いていた、或るオタクの物好き系コラム。

## 日本酒がおいしい厳冬期

しんしんと寒さが増してくる冬の晩、  
気のおけない友人と鍋を囲みながら、  
食卓で熱々のおでんを頬張りながらい  
ただく日本酒は、格別の味わいです。  
うまさけはうましともなく飲むうちに  
酔ひての後もほのやけき。

この歌は、酒づくりの泰斗・坂口謹  
一郎博士が研究のあいに詠まれた和  
歌の一つです。歌集『発酵』には酒蔵で  
お酒が醸される様子や、研究室で実験  
される思いを詠んだものが多く、名著  
『日本の酒』とともに私が日本酒に親  
しむきっかけとなった本です。

日本酒のことに少し興味がある方  
にお薦めの番組をご紹介します。まずは、  
イラストレーターで酒場詩人の吉田類  
さんの『酒場放浪記』。全国の酒場の聖  
地へ酒と肴を求めさまようもので、私  
も放浪マップのお店を訪ねて一人で悦  
に入っています。同じく、グラフィッ  
クデザイナーの太田和彦さんの『ふら  
り旅いい酒いい肴』。これも各地の居  
酒屋で地元の銘酒と肴を愉しむドキュ  
メンタリーで、女将さんや板前さんと  
の会話が魅力です。もう一つ、名脇役  
の俳優・六角精児さんの『呑み鉄本線』。

日本旅。鉄道沿線の酒蔵や居酒屋を  
巡る旅情豊かな番組です。気が向くと、  
週末に放映された西日本の鉄道に乗り、  
六角さんの足跡をたどっています。家  
族も大ファンです。

日本酒は、水と米を原料に麹菌や酵  
母の力により醸されます。酒造りに適  
した水はミネラルが豊富で鉄分が少な  
い井戸水で、ミネラルの多寡で硬水と  
中・軟水に分かれ、硬水を扱う銘醸地・  
灘の酒は「男酒」、中軟水の伏見の酒は  
「女酒」と呼ばれます。山田錦や五百万  
石のような酒づくりに適した酒米を精  
米して蒸し、種麹を撒いて麴をつくり、  
これに蒸米と水と酵母を加えて酒母を  
造ります。酒づくりのリーダー・杜氏  
の下、蔵人が仕込み桶やタンクで丹念  
に酒を造ります。麴によるでんぶんの  
糖化と酵母によるアルコール発酵が同  
時に進む「並行複発酵」により美酒が  
誕生します。趣味で訪ねる冬季の酒蔵  
では本格的な酒造りが行われ、黙々と  
働く蔵人の動きや甕から上がる蒸気、  
上槽した酒を絞って火入れ・瓶詰めす  
る作業をつぶさに見ることができます。  
見学後の試飲もまた楽し。

日本酒には、酒米の銘柄や、米の精

米歩合、醗づくり、醸造用アルコール  
添加、貯蔵方法により様々な商品が  
あります。酒蔵の数は約千四百から  
千六百と言われています。各蔵の商品  
数は10〜15なので、一生かけても試す  
ことはできません。未踏の北海道や  
青森・岩手・福島県の酒蔵探訪は、退職  
後の密かな愉しみに残っています。

【おすすめの酒店】「六条タキモト」、「山  
中酒の店」、「島田商店」、「酒のやまもと」  
ハンブレイ・T



melody of smiles

GCKids International School

QRコード

GCCKidsの年間行事・秋の遠足は、今年も大きなバスに乗ってみかん狩りへ。お  
いしそうなみかんを獲って仲良くバクバク、お昼ごはんにはママが作ってくれたお  
にぎりをみんなともくもく。野外でたくさん遊び、みかんもお腹いっぱい食べて  
自然を満喫した子どもたち。とても楽しい遠足になりました！



20年以上続いている餅つ  
き大会には世代を問わず  
180名ほどが参加され、  
外国人の方も多く見られ  
た。来年は餅を全種類制覇  
してみようか。

津守地活協が主催する「津守  
地域餅つき大会」が元津守幼稚  
園で12月14日に開催された。つ  
きたての餅を目当てに取材に  
行った。

園庭で杵と臼でつく「餅つき  
体験」は子どもに大人気。とくに  
目を引いたのが餅米の蒸し器で  
ある。最近ではガスが多いのだが、  
津守はなんと薪を使用している。  
会場全体を包み込むような何と  
も言えない良い匂いはこれだっ

たのかと得心する。無料の綿あ  
めコーナーも子どもに大人気だっ  
た。

屋内には餅の実食コーナー。  
雑煮、ぜんざい、醬油、おろしポ  
ン酢にきな粉と種類が豊富。き  
な粉餅をいただくことにしたが、  
餅が白玉サイズで食べやすく、  
驚くほどに美味い。きな粉の優  
しい甘みもそうだが、なんといっ  
ても餅本来の味と食感がたまた  
ま。

大阪市の住民参加型地域組織「地域活動協議会」の  
活動に橋を架けよう「近ツ橋【ちかつきょう】」

## 近ツ橋 津守地域 餅つき大会



【福井龍磨】中里介山の大長編時代小説「大菩薩  
峠」を読み始めた。同じ幕末が舞台の小説では島崎  
藤村の「夜明け前」が有名だが、こちらは超大作であ  
りながら存在すら忘れられている。知られざる金字塔。



【西田吉志】今年もよろしくお願ひします！ 新し  
い年の幕開け。厄年も明けた今年は、小さなトラ  
ブルも大きな不安も勢よく乗り越え、新しい価  
値や経験を少しずつ育む一年にする。



【谷口円】今年は生活に大きな変化がある予定。過  
去を振り返ってみると、10年くらいのスパンで人  
生の方向が変わる傾向にあるので、今年が新たな  
10年のスタートになるのかも。



【田岡秀朋】コトノネ最終刊。障がい者と歩む道を  
問い続けた14年。地域と人を紡ぐ言葉はまだまだ  
必要。「また、会いましょう」の言葉に、勝手にライ  
バル誌として、『なび』を続ける理由をもらったかな。



# 葉っぱの吐き

といき

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。



## 「テマリ草の葉っぱ」の巻

丸と四角どっちが好き？  
そんなの聞かないで  
わたしを見れば  
必ずわかるはず  
丸と四角どっちが嫌い？  
どうしてそんなこと聞くの  
わたしを見れば  
本当にわかるはず  
丸と四角どっちが強い？  
おもしろいこと聞くんだね  
わたしを触ると  
絶対にわかるはず  
丸と四角どっちが弱い？  
そんなこと聞いてどうするの  
わたしを突くと  
きつとわかるはず  
丸と四角どっちも好き？  
やっとなんて聞いたらね  
どっちも大好き  
形なんて関係ない

赤井まゆみ

### テマリ草のこと

ナデシコ科のナデシコ属。  
まるでマリモのような形。  
花言葉は  
「純粋な愛」「才能」



# い湯かげん

## 運用益という第三の財源

社会保障も積極財政も良いが、先立つ財源はあるのか。ずっと堂々巡りの国会議論が続いてきた。そこに突如、公明党の岡本三成政調会長が「ジャパン・ファンド」の創設を言い出した。これがなかなかおもしろいので、勉強したい。岡本さんは、「ゴールドマン・サックス証券出身で、投資のプロらしい。」

読者は、GPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）というものをご存知か。年金を管理している法人だが、いまや世界でもトップクラスの運用資産額となり、数百兆円規模だと言う。その他にも外為特会（外国為替特別会計）や中央銀行や公的機関が保有するETFなど政府系ファンドもあり、これら公共資産を一括してジャパン・

ファンド（仮称）なる政府系ファンドに預ける。この運用に、GPIFが積み上げてきた長期運用＋分散投資による収益実績やリスクマネジメント（危機管理）能力を活かせば、500兆円規模の資産を運用し、利回り1%でも年間5兆円の恒久的で有力な財源となるという試算を岡本さんはされている。

遡ること25年、GPIFの前身である年金福祉事業団は官僚の天下り機関と化して年金保養基地（グリーンピア）事業等に失敗し、年金基金を目減りさせた。その反省から、官僚や政治との関係を遮断させ、かつ民間的な資産運用も制限し、GPIFという第三者機関のガバナンス（意思決定のルール）能力を磨いてきた。このガバナンス

能力が今や世界トップクラスになった。今度は失敗しないと思うから、増税や改革という痛みの伴う財源に続く、運用益という「第三の財源」を眠らせておく手はない、というのが岡本さんの主張だ。もちろん、安定した公共資産は新たな投資を呼び込むことにもなる。

斎藤幸平という若い哲学者は、官でもない民でもないコモン（公共財）を主張し、その管理と運営の哲学が必要だと説いている。彼は、民営化ではない「市民営化」と言った。そこで、政府系ファンドを「哲学的に」とまとめると、「所有ではなく運用」される未来価値のコモンとなり、その肝は、公共（パブリック）と政治（ポリティクス）を切り離すということのようだ。「三権分立」ならぬ「四権」か？（ちよっと間違った比喩だが）。国民の側は、税金だけでなく資産の運用益という「財布」も持っていることを見直すべきだ。

我田引水だが、ボクは、公契約の委託を、官でもなく民でもなく価格だけでない総合評価入札にするなら、事業と障がい者雇用の「二兎を追える」と取り組んできた。だから、公共資産をコモンとして運用する」という着想はスツと腹に収まる。しかし、問題は、政治からの完全な独立とコモンの熟達だから、公契約条約とかコモンの法が必要だ。大阪府ではハートフル条例を作ったが、これはあまりに小さな事例。「コモンの法」は公明党が先陣を切るのか？ 誰でも良い、有意義な国会議論を期待したい。

ボクは前号の「湯かげん」で、立憲の「給付付き税額控除」、国民民主の「介護最賃やパートの所得向上」、維新の「副首都法」に期待し、非自民が主導の政治をと書いた。これらに公明の「ジャパン・ファンド法」への期待も付け加えておきたい。してみると、非自民の役者は揃って居ないか。楽しみだ。



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これから「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

# 皮算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



（寺本良弘）

最近の報道番組を見ていると、どの局も似たような内容で、真実がわからなくなる。高市氏の発言以降、日中間の緊張が高まり、先日も中国の戦闘機に対して領空侵犯措置をしていた日本の戦闘機がレーザーロックを受けた。小泉大臣の抗議も中国側は意に介していないようで、このまま不穏な動きが続くと戦争のきっかけとなる危険がある。

習近平だけでなくプーチンもトランプも自国の利益を優先し、戦争を回避して国民を守るという視点を持っていないようだし、このままでは現実には、国連の常任理事国が戦争の当事者になるかもしれない。

今こそ国連が機能し、力の弱い国々が連携して大国に対応すべき時だ。そのリーダーに日本がなれるのか、見てみたい。力と力では解決しない現実がある。

【山村裕太】ちいかわの映画化が決定し、2026年夏に上映予定です。絶対に見に行くつもりですが、さすがに一人で行く勇気が持てません。でも大きなスクリーンでモモンガを見たい葛藤。

【若松司】J-POP 史上に燦然と輝く近未来テクノポップユニットが「コールドスリープ（復帰が前提の活動休止）」に入った。数年後には彼女らも40歳。次はどんな夢を見せてくれるのだろう、今から楽しみだ。



地域の縁を心でつなぐ

## 松崎こい 心の時間

100坪の家に住んでいる

知人の話を持ち出し「広い土地で暮らせて羨ましい」と呟く友人。「広ければ広いほど良い」と語る彼の言葉に、トルストイの短篇「人にはどれほどの土地がいるか」を思い出しました。

常日頃「自分の土地が十分にあったら幸せ」と願っていた主人公のパホームは、ある人から「1000ルーブルの代金で、

一日歩いて回った全ての土地をお分けしよう。但し、日没までに出発地点に戻らなかつたら、土地を受け取ることが出来ない」と提案され、受けて立ちます。

日没間近、欲をかって遠くまで来すぎたことに気づいたパホームは急いで走り帰り、日没までに出発地点に辿り着き、約束どおり広い土地を手に入れました。しかし走りに走って疲れ果てた彼は、この幸運を称えられつつもその場で倒れ死に、結局6フィートの墓に納まったという顛末。

起きて半畳寝て一畳——必要以上に求めるよりも足るを知る（知足者富）ことが真の幸せに通じている、つまり心次第で誰もが幸せになれるのだと教えられる。

松向寺 通法

写真は人生の一部が映ったものの。

ここは思い出や自慢の1枚を少しご紹介するコーナーです。



## ウタリ の1枚

📷『思いを馳せる』

2026年、干支は午。馬は私が一番心惹かれる動物です。理由は枚挙に暇がありません。賭けないのに駆ける馬の姿を見たいがために競馬場へ連れていってもらったことも。写真は以前、伊勢神宮にて撮影しました。昔は神社によく馬がいたそうです。近所の神社に馬がいたら毎日通っていたのになあ。（編集スタッフ 西井亜花梨）

## ゆ〜とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび1月号(vol.227)  
発行日:2026年1月1日(創刊日:2007年1月1日)  
発行:株式会社ナイス  
住所:大阪市西成区長橋3-6-33  
電話:06-6563-1150  
E-mail:info@nice.ne.jp  
url:https://www.nice.ne.jp/

編集長:西田吉志  
編集:磯拓哉、沖田一志、笹川勝正、住友宣夫、  
田岡秀朋、福井龍磨、山村裕太、若松司(あい  
うえお順)  
イラスト:hidarimaki、西井亜花梨  
デザイン:谷口円

(株)ナイス  
ホームページ

